

(イ) 大規模園地復旧の推進状況について

1 宇和島市吉田町農地復旧モデル計画策定事業（H30）実施地区の状況

R2. 10 月末現在

| | | 地区名 | 被災面積 | 計画 農地面積 | 復旧方法 | 進捗状況 |
|------|-----|--------------|-------|------------|------|--------------------------------|
| 宇和島市 | 玉津 | ふかうら 深浦 | 0.4ha | — | 原形復旧 | 工事中 |
| | | ほげづ 法花津 | 1.9ha | 4.4ha | 再編復旧 | 本年度測量設計を実施 |
| | | しろうら 白浦 | 0.7ha | 2.4ha | 〃 | 〃 |
| | 立間 | こな 小名 | 0.4ha | 0.4ha | 改良復旧 | 工事中 |
| | | しらいだに 白井谷 | 0.3ha | 0.8ha | 再編復旧 | 近隣の要望箇所と合わせた再編復旧に向け、本年度整備構想を作成 |
| | 喜佐方 | おきむら 沖村 | 0.3ha | — | 原形復旧 | 工事中 |
| | | かわち 河内 | 1.0ha | 1.5ha | 改良復旧 | 工事中 |

2 玉津地区（白浦、法花津工区）再編復旧

(1) 事業名

農地中間管理機構関連農地整備事業（県営） R2 事業着手

(2) 事業概要

区画整理 6.8ha（白浦 2.4ha、法花津 4.4ha）

急傾斜樹園地を緩傾斜化し、排水機能を備えた農道や園内作業道を効果的に配置するなど、収益性の高い園地を整備する。

(3) 想定スケジュール

| R1 2019 | R2 2020 | R3 2021 | R4 2022 | R5 2023 | R6 2024 | R7 2025 |
|------------|------------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 計画策定 | 農地中間管理機構関連農地整備事業 | | | | | |
| 工程内訳 | 測量設計 | 区画整理工事 | | | | 換地処分 |

3 立間地区（白井谷工区、正木谷工区、ツガノクチ工区）再編復旧

(1) 検討状況

白井谷工区に加えて、再編復旧の要望がある近隣の正木谷工区、ツガノクチ工区を含め、立間地区として事業化を推進。

(2) 想定事業

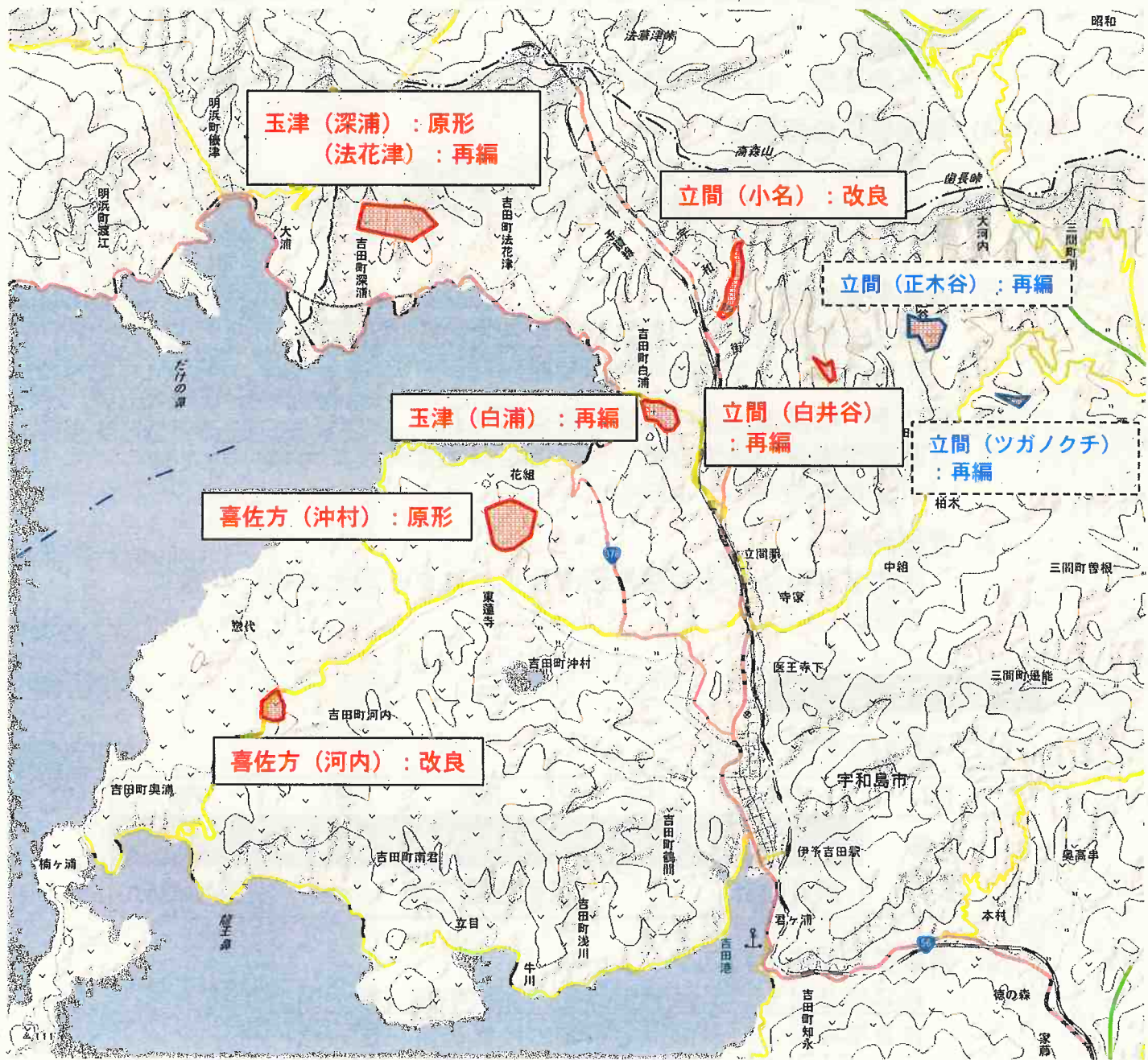
山林の介在や整備区域外の農道、農業用排水施設の整備要望があるため、実施内容や集積等の自由度が高い「畑地帯総合整備事業」の導入を検討。

(3) 本年度の実施内容

県単事業「樹園地再編整備推進事業」により整備構想を作成し、地元合意形成を後押しした結果、3工区ともに地元の合意が整い、計画策定事業の令和3年度採択を国へ申請。

（「立間地区」再編復旧の概要 参照）

宇和島市吉田町農地復旧モデル計画 位置図



たちま
「立間地区」再編復旧の概要

整備内容（構想）

- (1) 実施事業
畑地帯総合整備事業
- (2) 受益面積【事業要件 \geq 5.0ha】
5.6ha（白井谷^{しらいだに}0.8ha、正木谷^{しょうぎだに}3.7ha、ツガノクチ1.1ha）
- (3) 整備内容
区画整理 4.2ha、農道整備 100m、用水施設整備（検討中）
- (4) 事業費の負担割合
国 55%、県 25%、市 10%、地元 10%※
※ 担い手への集積実績に応じた地元負担への助成あり
（最大 8.5%）
- (5) 基盤整備計画
園地を緩傾斜化し、排水機能を備えた農道を整備
あわせて、用水施設の整備を検討
- (6) 担い手への農地集積【事業要件 \geq 50%】
基盤整備後の農地を担い手（認定農業者等）に集積
（集積率 50% \Rightarrow 100%）
- (7) 営農計画
高収益が見込める中晩柑類（甘平、紅プリンセス等）の導入
を検討

今後の予定（想定）

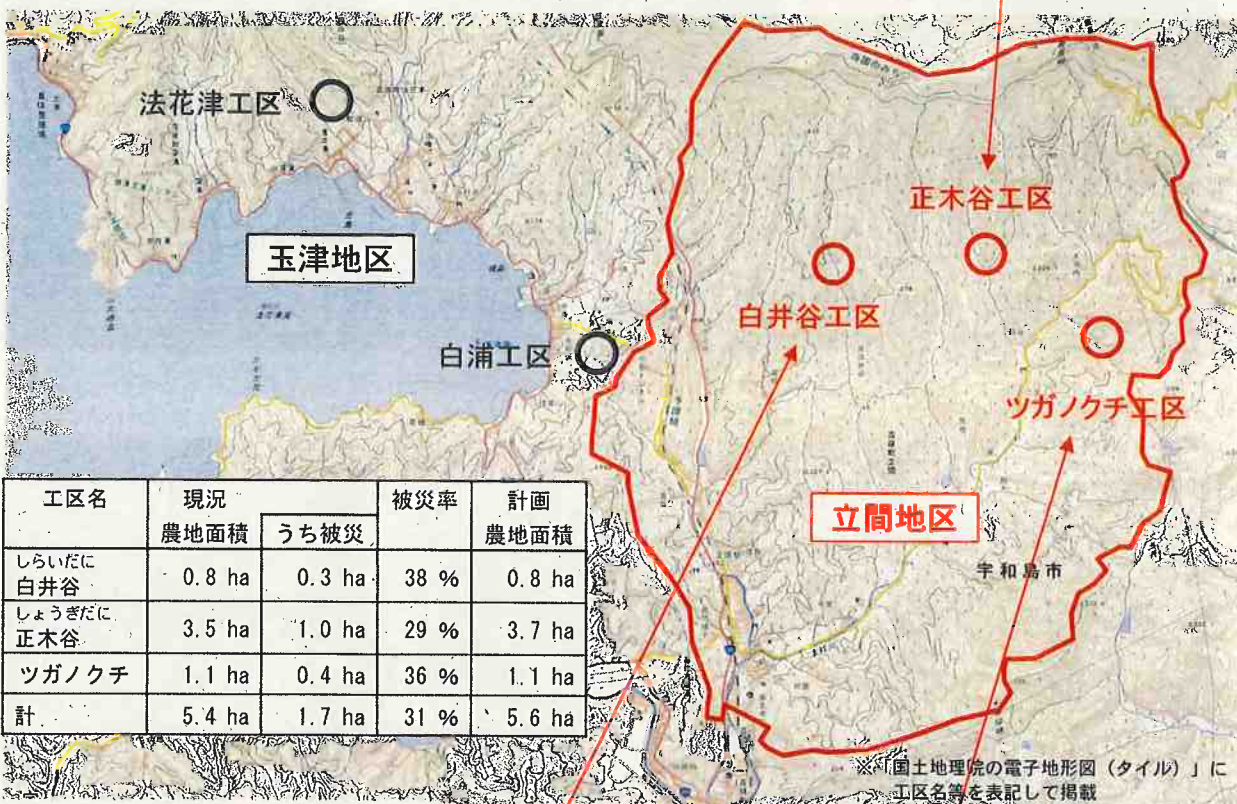
(1) 工事のスケジュール

| R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 |
|------|-----------------|--------|----|------|----|
| 計画策定 | 畑総事業（畑地帯総合整備事業） | | | | |
| | 測量設計 | 区画整理工事 | | 換地処分 | |

(2) 事業採択に向けたスケジュール

- R3年2月末 計画策定事業の採択申請（県→国）
 R3年4月 計画策定事業の採択決定（国→県）
 ～ 畑総事業の採択に必要な事業計画書の作成（県）
 （基盤整備・営農・集積・換地等の詳細計画）
 11月末 畑総事業の採択申請（県→国）
R4年4月 畑総事業の採択決定（国→県）

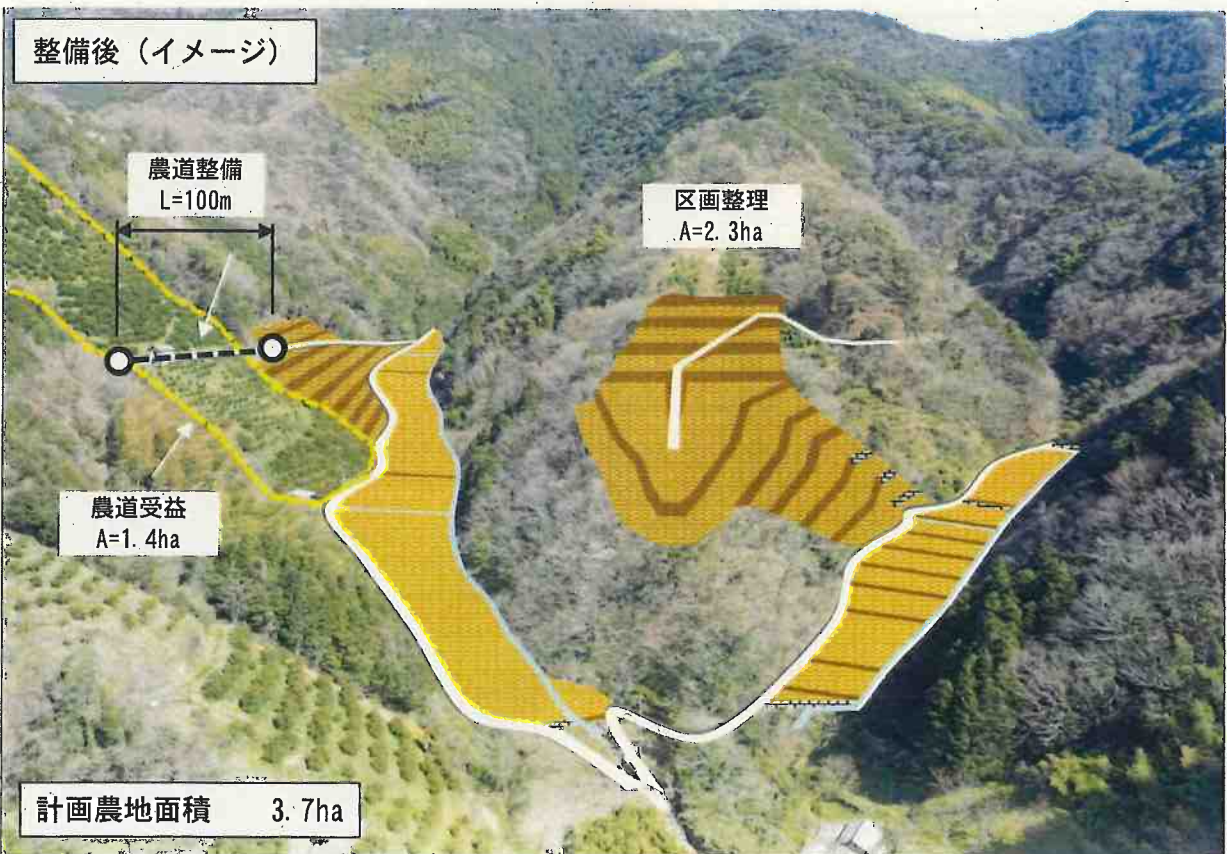
たちま
 (参考1) 立間地区 (宇和島市吉田町) 位置図



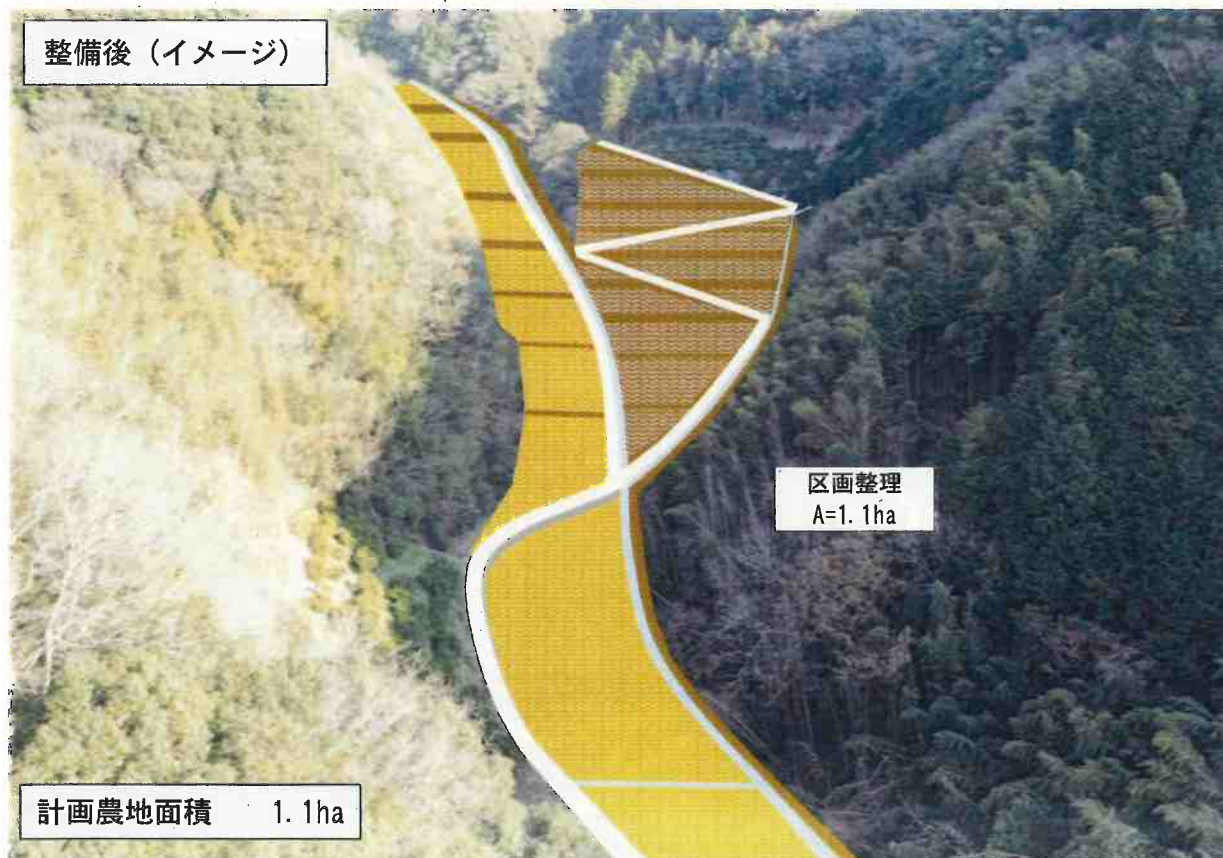
しらいだに
白井谷工区 整備構想図



しょうぎだに
正木谷工区 整備構想図



ツガノクチ工区 整備構想図



(2) 営農支援策について

① 生業支援について

根域制限栽培実証圃場の概要

根域制限栽培とは

根域規制減とは、防根シートと、ブロックで形成した枠の中に培土を盛り土して木を植えることで根の分布域を制限する栽培方法（※佐賀県果樹試験場開発）である。

マルドリ栽培（マルチ+点滴灌水）と液肥混入機により、水管理と施肥コントロールを行い、高品質安定生産果実生産を目指す。

本実証圃場では、環境モニタリング装置を設置し、早期成園化実証園地の技術開発・実証に必要な気温、地温等の環境データを測定している。

期待される効果



- ① 果実品質の向上（水分コントロール）
- ② 作業効率化（直線的な栽植等）
- ③ 早期成園化（液肥コントロール）
- ④ 所得の向上（正品率向上）

※佐賀県農業試験場における比較データ
（根域制限のみ）

秀品率：慣行の約3倍

作業時間：約25%減

定植5年後の収量：通常1t/10a→5t

農業所得：約3倍

実証圃場の概要

設備

園地造成（防根シート、ブロック、盛り土（培土）、排水設備等）

点滴灌水施設（制御小屋、マルドリ設備（液肥混入器含む））

事業費：12,336,170円（国補助成金10,000,000円、果樹生産性向上モデル確立事業）

実証内容

品種：南柑20号（カラタチ台、2年生、192本）

面積：1,447㎡（植栽間隔1.5m×1.5m、作業通路2m）

目標：労働生産性の向上（単位当たり生産量に対する労働時間の短縮110%以上）

環境モニタリング装置

気温、湿度、地温、土壌水分、降水量等を測定。スマホ等でリアルタイム閲覧可能。

生産対策

培土：真砂土、バーク、混合ピートモス

灌水頻度/灌水量：1日2回（8時、18時）、10分/回、6～7月中旬、随時変更）

（点滴チューブ1L/h/穴吐出、1穴×30cm、樹列間に2列敷設）

抑草シート（ルンルンシート）、園内道は除草剤。

液肥コントロール：灌水と同時施用（2000倍）

使用液肥：OKスペシャル（15-8-12、OATアグリオ）

防除等：ミカンハモグリガ（エカキムシ）、アゲハ等の防除

[写真添付予定]

